成功体験が自信につながる——体操を通じて子どもの人生に光を与えたい

代表取締役 東 智司 × タレント 島崎 俊郎

「遊びながら楽しく、体力、運動神経向上」をテーマに、体操を通じて体を動かす楽しさを教える『東体操スクール』。代表を務める東智司コーチは、元器械体操の日本代表選手だ。子どもたちの運動神経向上のために自身の経験とノウハウを活かし、また経験者として子どもたちのメンタルにも寄り添う。本日は、そんな社長にタレントの島崎俊郎氏がお話を伺った。

——早速、東社長の歩みから伺います。運動をする方らしい体格をされていますね。体操教室を運営されていますが、ご自身も体操をなさっていたのですか。

ええ。実は、元器械体操の日本代表としてユースオリンピックなどの国際大会に出ていました。

——日本代表ですか！　素晴らしい実績をお持ちですね。幼いころから体操を？

5歳のころに体操をはじめました。3歳ぐらいから、壁を使って逆立ちをしてみたりと体を動かすのが好きだったもので、それを見た近所の方が母に体操教室に通わせてみたらと勧めて下さいまして。子どもたちが集まって、前転・後転・側転などを練習する体力開発センターに通うようになったんです。すると、1年も経たないうちに一番上のクラスに入れ、コーチが「和歌山オレンジ体操クラブ」を紹介して下さり、選手として専門的な指導を受けるようになりました。同クラブは、ロンドン五輪に出場された田中理恵さんも通われたクラブで、理恵さんご兄弟とは幼馴染なんです。

——あの田中選手もいらっしゃったのなら、エリートが集まっていたのでは。

ええ。「和歌山オレンジ体操クラブ」に通う子どものうちの8割がジュニア時代から日本代表として活躍していました。私は小学校5年生の時に初めて日本代表に選ばれ、高校3年生の18歳まで国際大会に出場していました。

——現役時代の最高の成績は？

ユースオリンピックの個人総合16位です。しかし、高校2年生の時に左膝の脱臼骨折を負いまして。リハビリに励み、オリンピック選考会に出場できることが決まったのですが、その一週間前に再び骨折。選手生命に関わる怪我でしたから、あの時はがっくりと肩を落としました。幼少期から十数年もの間、オリンピックを夢見て練習に励んできたのに、その道を閉ざされた瞬間の心境というのは言葉になりません。怪我のために高校3年生の時はほとんど大会には出られなかったのですが、それまでの成績が評価されて『順天堂大学』に特待生として入学できました。でも、どうにも打ち込めず、大学も、そして体操もやめてしまったんです。

——それは、つらいご経験ですね。それでも体操の世界に戻り、事業をスタートされたのはどういった経緯があって？

知人から全日本大会に出る子どもへの指導を依頼され、「玉川文化センター」に足を運ぶようになりました。そこで館長から、新たに体操教室を新設する会社を紹介されて入社しまして。私はその基盤づくりに携わることになったのです。体操器具などの設備投資について打診するも経費が掛かるため受け入れていただけなかったりと、一筋縄ではいきませんでしたが、懐に退職届を忍ばせて社長に直談判しては課されたノルマをクリアし、少しずつ基盤を築いていきましたね。そのうちに役職にも就かせていただきましたが、その後、独立して『アーサ』を設立して『東体操スクール』をスタートさせました。

——子どもたちのために環境構築に力を尽くされたご経験は、独立に活かせたでしょうね。『東体操スクール』さんは、どういった指導方針で？

通ってくれる子どもたちは、学校で逆上がりが出来なくて悩んでいたり、早く走れなくて悔しい思いをしていたりと、基礎運動が苦手な子どもが圧倒的に多いんです。小さいころにどれだけ体を動かすかが将来の運動能力に影響しますから、基礎的なコーチング技術から応用的な専門知識までを活かしながら、様々な運動を通して子どもたちに身体を動かす楽しさを伝えたいですね。

——楽しいと感じれば、継続する力も生まれますからね。

ええ。楽しく運動するためにも、当スクールでは体操を通してたくさんの“出来た！”を経験してもらい、その成功体験によって“やれば出来る！”と自分を信じることが出来る子どもを育てたいと考えています。私自身が体操をしていたから、思うように出来ない子どもの悔しい気持ちを理解できますし、上達した時の喜びも手に取るように分かる。だから、教える側に立った時、自分の選手時代を振り返って、どんな指導が自分にとって一番心に響いたのかなどを思い出しながら、選手の気持ちに真剣に向き合うことを大事にしようと決めたんです。小さなことから一つひとつ出来ることが増えるたびに自信も持てるようになります。教え子たちがそれまで出来なかったことを出来るようになった時に見せてくれる弾けんばかりの笑顔が、私にとって一番のやり甲斐です。

——今後も、そうして子どもたちを見守っていって下さい。

はい。楽しみながら体操に取り組み、その中で優秀な体操選手に育て上げ、世に送り出していきたいです。そうして実績を積み重ね、スクールの全国展開も進めたいです。体操を通して、子どもたちの人生に光を与える——それを目標に活動を続けます。

（2018年12月取材）

column 熱意が周囲の応援を呼び込む

▼知人の導きによって、夢破れて一度は離れた体操の世界に戻ってきた東社長だが、前職時代は苦労の連続だった。体操教室の基盤づくりに携わるも会社の意向とのズレから苦心し、それでも子どもたちのために力を尽くした。その上、体操教室である問題が持ち上がった際には、会社に改善を求めたところ理解されず、そればかりか解雇されてしまう。その時、応援してくれたのは、子どもたちにより良い環境で体操をさせたいという社長の気持ちに共感した保護者たちだったという。「不当解雇だ」と社長を応援してくれる保護者に加え、社長の親族らも独立を決めた社長を援助。また、『京阪電鉄』の所有地を借りられることになって、『東体操スクール』として新たな一歩を踏み出した。子どもたちに体操を教えたい——その熱意が道を切り拓いたのだ。

with guest interviewer

「全身全霊を傾けて取り組んできたものを奪われると、人生の目的を失ったように気が抜けてしまうものです。幼少期から体操にすべてを懸けていらっしゃった東社長が夢を絶たれた時のお気持ちは、想像もできません。そうしたご経験があるからこそ、子どもたちの良き理解者になれると思います」島崎 俊郎・談

株式会社 アーサ
東体操スクール
京都府八幡市欽明台北 2-2
http://azuma.main.jp/
Azuma Gymnastics School